

# はやとくん通信

ファンクラブ&ユーザー  
電子速記研究会発行



2012. 11 No. 57

(抜粋記事)

## 「はやとくんフォーラム2012」 & 電子速記研究会総会の御案内

毎年恒例の「はやとくんフォーラム」ですが、今年も「浅草」で開催いたします。

遠藤会長からは、日本語文を綴るのに適したローマ字入力用配列や最新の「はやとくん」の開発状況をお伺いします。また、矢倉講師から、新設されたはやとくんスイッチについて分かりやすく紹介していただきます。

布施講師からは、事件別辞書を作るときの品詞指定と意味属性の付け方について、各地の学習会で宿題に出している例を基に、実際にどうしたら誤変換が解消していくのかを学習します。

今年は、ステノグラフ社から新製品のDiamanteをお借りしました。(WAVEは、最高裁の検証が終わって、借りられたら持って行きます。)

これまでのステンチュラとの違いや、2つの機械の機能の違いを説明いたしますので、実際に見て触って帰ってくださいね。

懇親会だけの御参加も歓迎ですので、皆様お気軽に御参加ください。

### ●日程 (予定)

#### ◇12月15日(土)はやとくんフォーラム

- 13:00~17:00 講師  
遠藤会長「ローマ字入力用配列」  
矢倉 「新設のはやとくんのスイッチについて」  
布施 「事件別辞書と誤変換の解消のしかた」  
小西 「DiamanteとWAVEの紹介」等
- 18:00~20:00 懇親会



#### ◇12月16日(日) 総会 & 開発会議等

9:30~16:00 (詳細は追ってお知らせします)

### ●場所 浅草セントラルホテル

〒111-0032 東京都台東区浅草1-5-3  
TEL 03-3847-2222(代)  
FAX 03-3847-2260

- ・地下鉄/銀座線浅草駅1番出口より徒歩3分
- ・地下鉄/都営浅草線浅草駅A4番出口より徒歩5分
- ・地下鉄/銀座線田原町駅3番出口より徒歩5分
- ・東武浅草駅正面出口より徒歩5分
- ・つくばエクスプレス浅草駅A1出口より徒歩4分

## ● 参加申込みについて

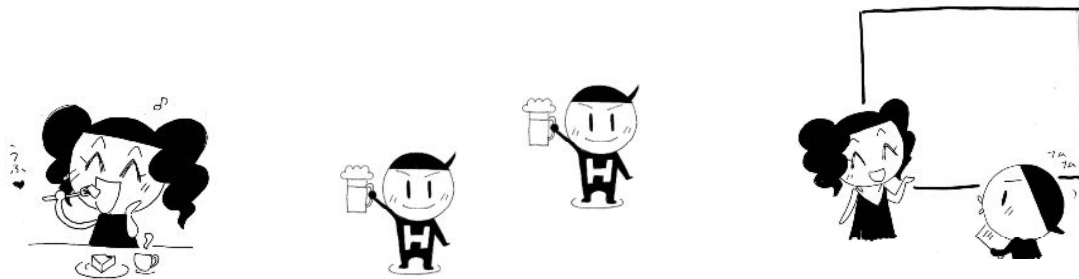
- 15日は参加自由、
  - 16日は電子速記研究会の会員限定です。
- お申込みは、
- 住所
  - 氏名
  - 連絡先
  - 参加予定日
  - 懇親会参加の有無（5000円）
  - 宿泊申込みの有無（15日）
  - 昼食申込みの有無（16日）をお知らせください。
  - 会員の方はなるべく全日程参加をお願いします。



## ● 参加申込み宛先

電子メールアドレス：E-MAIL kimi-koni@nifty.com (Kimi宛)

## ● 申込締切日：11月末日（宿泊が必要な方はお早めにお申込みください。）



## ～ フォーラム参加申込み～

「はやとくんフォーラム2012」に参加を申し込みます。

氏名（フリガナ）： \_\_\_\_\_ ユーザー所属地域（ \_\_\_\_\_ ） 個人ユーザー

住所：〒 \_\_\_\_\_ TEL \_\_\_\_\_

メールアドレス&ニックネーム（ある方のみ）： \_\_\_\_\_

参加予定日（○印をお付けください）： ・両日参加      ・15日だけ参加      ・16日だけ参加

懇親会参加の有無（5000円）：      有      ・      無

宿泊申込みの有無（15日）：      有      ・      無

昼食申込みの有無（16日）      有      ・      無

布施さん



10月27日に、日本速記130周年記念・速記競技会が東京の早稲田速記医療福祉専門学校において開催され、布施久美子さんが2つの競技で見事優勝しました。  
以下、本人の報告です。

10月27日に、日本速記協会主催の高速度競技会（350字×5分：反訳時間70分）とリアルタイム反訳競技会のリポーター級（280字×5分間：朗読後15秒以内に答案提出）、東京速記士会主催の速記競技のA級（320字×10分：反訳は指定部分のみ30分）に参加し、リアルタイムとA級の2つで優勝させていただきました。＼(o)/

ですが、リアルタイムのほうはテーマが難しく、変換がボロボロで、辛うじて1位で90%以上の正解率ではありましたが、2位はローマ字入力の若者で、意外と僅差だったのです！「はやとくん」も私も、不得意分野はまだまだあるな…と思いました。

ノートテイクー級は音声認識も参戦していて、4位でした。こちらは見直し時間が5分もあったので、せめてリポーター級も1分あればな…と思いました。リポーター級のほうは問題文もすごく難しかったです。むしろ、スピードが速かった東速のA級のときのほうが、リアルでもよい変換だったと思います。

高速度では、見学者が多く、久しぶりに手が震えて原本がぐちゃぐちゃでした～。日ごろは「打ち直しをしないでね。」なんて後輩に言ってるくせに、ひどかった～。（笑） 原本と超にらめっこ！想像力全開！猛反省です。

自己採点の結果は97%というところで、肝腎な単語の抜けはなかったものの、「など」が抜けていたり、「と」が「や」になっていたり、「場合」と「こと」を読み間違っていたり、「正しく」が「正しい」になっていた…、短期記憶の衰えを感じました。

結果は4位で、一緒に参加した手書きの方たちも「難しかった」とは言っていました。やっぱり手書き速記の達人の技というのは凄いものだと思います。A級でも、1位の私と2位の衆議院の方とはたった1字差だったそうです。その沈着さやスピード、細部にわたる正確性には、感嘆すると同時に尊敬をおぼえます。私も頑張らなければ…と、いろいろ刺激にもなり、勉強させていただきました。



次も受けたいか？という、しんどいわーというのが正直なところですが、たまに自分にカツを入れる！のもよいかもしれません。

# 速記130年記念シンポジウム in 大阪

## 「講談落語速記本の興隆と大阪の速記」

去る10月13日、大阪で開かれた速記130年記念シンポジウムで、伝統の手書き速記とリアルタイム型「はやとくん」が競演しました。速記名人の大堀吉治さんが速記・反訳し、直ちに電子書籍化して日本速記協会のHPにアップしました。



講談「越の海勇蔵」を熱演する旭堂南陵師匠。右から、リアルタイム入力の安達晴美氏、校正の楠本和宏氏。  
正面の画面に文字があらわれる。



速記名人大堀吉治氏、77歳ながら速度も精度もプロ最高水準を保つ怪人だ。南陵師匠の講談をばりばり書きまくる。

10月28日



速記記念日



# 千早さんの訃報



これまでステノグラフ社との窓口になって通訳をしてくださっていた千早瑞穂子さんが、9月10日に急逝されました。その追悼ミサが高輪カトリック教会にて10月24日に行われ、速記関係では遠藤会長をはじめ7名が参列しました。



この15年ほど千早さんに随分助けていただきました。

速記機械や裁判制度の専門的な難しい話を見事に通訳してくださるだけでなく、有能な秘書のようにビジネス的なサポートも常にしていただきました。

千早さんのおかげで、ステンチュアの日本版の製作や輸入が可能になり、その後も機械や消耗品の購入、修理、トラブルの対応、機械の改善、アメリカの実情調査等、数え切れないほど本当にお世話になりました。

正義感のとても強い方で、最高裁の速記官政策にも一緒に怒っていただいて、ステンチュアの官支給実現に向けて助言や後押しをしていただきました。

ごく最近、ステンチュアの新機種WAVEやDiamanteの日本版キーボード作製のことで、毎日のようにメールでやり取りをしていたところでした。

お亡くなりになる3日前のメールが、千早さんからの最後のメールとなりました。

長文の試作機の使用レポートを千早さんに翻訳していただき、そのレポートの要望に合わせてステノ社が試作機を作り直して送ってくれるというお話ができた直後でした。

その後、ジムでトレーニング中に倒れ、大動脈剥離の手術は成功して、意識も回復されたそうですが、その後急変して帰らぬ人となられたとのことでした。

教会には、御学友や、IT系大手有名企業の元同僚の方がたくさん参列して別れを惜しんでおられました。

私たちも、速記官みんなの感謝の気持ちを込めてお花を捧げました。ありがとうございました。



# WAVEの検証が行われます！

## 単体での速記原本印字機能のないステンチュアの検証について



最高裁当局は、全司法本部に対し、10月26日、標記の件について以下のとおり明らかにしました。

「現行のステンチュアに代わる後継モデルには速記原本を直接印刷する機能がないことから、速記原本についてステノパッド以外の用紙に印字し、保存する方法も可能にしてもらいたい。」との職員団体の強い要望を受けて、速記原本の様式及び作成方法につき、現行の速記原本用紙ないしステノパッドを用いた法廷での即時作成の手段に厳に限られるものかについて種々検討してきたところであるが、その検討の一環として、単体では速記原本印字機能のないステンチュアを法廷で使用して差し支えがないものかどうかという点に限って、実際に当該機器を用いて実務での運用を想定した検証を行いたいと考えている。

については、検証のために当該ステンチュアを1台提供してもらいたい。

具体的には、ステンチュアWAVEの試打を行った上で、入力した結果をどのように確認するのか、データはどのように記録されるのか、パソコン及びプリンタを利用して速記原本として普通に印字することができるかなどについて確認し、実務への支障がないか検証したいと考えているそうです。

ステノグラフ社に貸出しを依頼したところ、快く了解してもらい、WAVEを全司法に送っていただけることになりました。

(一緒にWAVEの上位機種Diamanteを「はやとくんフォーラム」用にお借りすることになりました。)

普通ならカタログやマニュアルを読むか、製造元に確認すれば済むと思うのですが、速記の機械には「検証」というセレモニーがどうしても必要のようです。

紙に印刷できるか検証するより、せっかくのよい機械なのだから、速記官に官支給して、ペーパーレス化、データで管理して、エコで便利な活用方法を検証するほうがよいと思いますが、それはまだ日本では遠いようです。

